

総括	研究分類 (主任指導者)	研究者名	研究テーマ	研究内容等	研究期間	始期	令和元年度 取組	令和2年度 実施内容(予定)
宮地 良樹	ビッグデータ (宮田 裕章)	中谷 英仁 田原 康玄 中山 健夫	②0 KDB データベースの活用による疾病予防・治療に資する知見の創出	KDB データベースを用いた長期縦断解析(2012年4月～)から、主要な臓器障害の発症や要介護に至るリスク因子の解明、臓器障害の改善や増悪に関連する因子の明確化、治療や投薬の効果などに関する解析を行うことで、様々な疾病の予防や治療の効率化に資する知見を得る。	長期	R 2	—	・ SASプログラムの開発 ・ KDBデータの解析
		田原 康玄	②0 KDB データベースによる循環器疾患・フレイルと生活習慣病の関連解明	KDB データを用いて、臨床形質(血圧や血液マーカー等)の増悪や生活習慣病の発症に関連するリスク因子や、フレイル形質(総死亡・認知症・転倒骨折・排尿機能障害等)に関するリスク因子について解析する。	5年	R 2	—	・ データ解析の実施
		佐藤 洋子 中谷 英仁	②0 口腔と全身の健康に関するエビデンス創出のための研究	KDB データを用いて、歯周病や睡眠時ブラキシズム、睡眠時無呼吸症候群、顎関節症などの口腔疾患と、様々な全身疾患との関連を詳細に検討し、介入可能な因子に関して因果推論を試みる。	長期	R 2	—	・ データ解析を実施
		中谷 英仁 佐藤 洋子 山本 精一郎	②0 慢性疾患の有病率の比較による、発症後も就労可能であった疾患の同定	慢性疾患の傷病名分類を用いて、市町国保加入者(静岡 KDB)と健保組合加入者(JMDC データ)における医療適応データから ICD10 分類により疾患情報を抽出し、75歳までの性・年齢別の47疾患について有病率を算出する。健保組合加入者に比して市町国保加入者で高い有病率をもつ疾患を発症後は就労不可能となった疾患とし、その他を発症後も就労可能であった疾患として同定する。	1年	R 2	—	・ 健保組合加入者における慢性疾患の 有病率の算定 ・ 解析結果の論文化
		小島原 典子	②0 悪性腫瘍と医療機会の関連	KDB データベース(2015年から2017年)において、肺がん、胃がん、大腸がん、前立腺がん、乳がんと診断された患者を対象とし、診断前の併存疾患による医療機関の受診回数、内服薬の種類、医療費の自己負担額(4区分)、介護保険認定状況のほか健康診断の受診歴、予防接種の接種状況を調査する。	3年	R 2	—	・ KDBデータの解析
	疫学 (中山 健夫)	高木 明 フェールガーリ マ ーシュ ダビッド ホウエル ジェイ ン 木谷 芳晴 上田 裕子	②0 脳の発達と聴覚に関する研究	①データ管理: 県下の難聴児のデータベース作成 他 ②教育研修の場の提供: 教師(聾学校、通常校)、保健師、言語聴覚士、医師の研修・育成 ③コンピュータ制御された音響刺激システムの活用: 種々の音響刺激と脳活動の定量的可視化(NIRS使用) ④高齢者の聴覚障害について: 認知症に対する聴覚刺激の効果 他	5年	H30	・ 音響刺激システムの運用開始 ・ 人工内耳装用者の音源定位能の測定 ・ 県下の難聴児データ収集と研修会実施	・ 更なるデータ収集、解析
		フェールガーリ マ ーシュ ダビッド ホウエル ジェイ ン 高木 明	②0 難聴児・者の社会復帰に関する研究	・ NIRS, BESA (EEG) による出生後の言語野発達の脳科学探索 他 ・ 難聴児・者の適切な介入方法の脳科学的探索 他	4年	R 1	・ 人工内耳装用児・者の fNIRS による言語野発達の分析	・ 更なるデータ収集、解析
		ホウエル ジェイ ン	②0 日本の難聴児の介入の効果と長期経過	①データ管理: 県下の難聴児のデータベース作成 ②教育研修の場の提供: 教師(聾学校、通常校)、保健師、言語聴覚士、医師の研修 ③新しいコミュニケーション能力測定テスト(FLI)の開発 ④縦断的研究(LOCHI)を用いた難聴児アウトコムの記録	5年	R 1	・ 小児人工内耳症例のまとめ、長期経過成績についてのデータ整理に着手	・ 県下の難聴児データ収集と研修会実施
		吉村 耕治 室 悠介 今村 正明 森本 達也 中谷 英仁	②0 メタボローム解析を主とした疫学的研究	地域住民、健診受診者または病院受診患者を対象とし、血液・尿のサンプルや、客観的な排尿に関するデータを収集する。約1年かけてベースラインデータを作成する。データを活用し、夜間頻尿を主とした各下部尿路症状についての研究を行う。又、3年後に頻尿についての縦断的な危険因子の研究を行う。	5年	H30	・ 夜間頻尿患者の研究参加者リクルート、測定開始	・ 更なるデータ収集、解析
		島田 俊夫 田村 尚久 清水 史郎 中谷 英仁	②0 緑茶パウダー摂取による血圧・血管機能・代謝への影響に関する研究	お茶服用前、服用後の経時的データを収集する。緑茶パウダーの生活習慣病改善効果、高血圧治療効果、心機能改善効果等について研究を行う。	5年	H30	・ 緑茶パウダー摂取後の身体検査データを分析	・ 更なるデータ収集、解析
中山 健夫 長谷川 敏彦	②0 保健・医療と介護から終末期をつなぐ統合的データ分析システム: 「静岡モデル」の開発と運用(仮)	医療ビッグデータに県民の介護保険・死亡状況のデータを含めた統合ビッグデータを構築し、ケアの質の向上と資源配置の適正化を図るエビデンスを得る。	5年	H30	・ モデル地区において過去の介護保険の資格台帳と認定データから基本となるデータベースを構築	・ 更なるデータ収集、解析		

総括	研究分類 (主任指導者)	研究者名	研究テーマ	研究内容等	研究期間	始期	令和元年度 取組	令和2年度 実施内容(予定)
宮 地 良 樹	疫学 (中山 健夫)	佐藤 康仁 長谷川 敏彦 中山 健夫	㉑ 静岡県における平均寿命、健康寿命等の健康指標の変化の要因分析	静岡県の平均寿命の都道府県間における相対的地位低下の要因を明らかにするとともに、平均寿命の差がどのような死因別死亡率の違いによりもたらされているのかについて分析する。	2年	R 2	—	・オープンデータの解析
		田中 清 島田 俊夫 中谷 英仁 齋藤 洸平 藺田 明広 井上 達秀	㉒ ビタミン不足の臨床的・社会的意義、及び慢性疾患予防におけるビタミンの役割に関する研究	ビタミンを中心とした栄養状態と、生活習慣病・加齢に伴う疾患など慢性疾患との関連を明らかにし、社会において多数を占める低〜中リスク者に対する、栄養改善を通じた疾患リスク低減の方法を考察する。	5年	R 2	—	・研究フィールドの調整 ・食事調査、血液検査、臨床指標の解析
	ゲノム コホート (松田 文彦)	寺尾 知可史	㉓ 静岡県におけるゲノム研究基盤構築に関する研究	1. 静岡県立総合病院におけるゲノム解析 2. ゲノム解析基盤の確立 3. コホートのサポート	5年	H30	・県立総合病院の外来患者から研究のための採血を行い、DNA抽出及び生体材料を集積	・データの解析
		田原 康玄	㉔ 大規模多目的ゲノムコホートの構築とゲノム・臨床形質の関連解析	3,000〜5,000 人規模の地域住民コホートを1つ設計し、ベースライン調査を行って生体試料と臨床情報を収集する。臨床情報、質問票調査情報、生体試料の分析結果、ゲノム網羅的 SNP 情報(末梢血から抽出した DNA を使用)を統合したデータベースを構築する。一定の調査データが集積された段階で、生活習慣病や老化形質などを中心に臨床情報・ゲノム情報の関連解析を行う。	長期	R 2	—	・研究の制度設計 ・研究フィールドの調整
		木下 和生	㉕ 発がんに関わる遺伝子編集酵素群の多型解析及び阻害剤の開発	AID / APOBEC 遺伝子多型と発がんとの関連を静岡県ゲノムコホート研究で調査する。遺伝子編集酵素による発がんを抑止することを目指し、遺伝子編集酵素の阻害剤のスクリーニングシステムを開発し、阻害剤の開発へと進める。	5年	R 2	—	・検体の収集 ・遺伝子解析